

# 年をとりついても暮らさせる中山間地に

## 中山間地対策特別委員会が条例策定作業に着手

市議会中山間地対策特別委員会（宮崎政国委員長）が先月29日開かれ、中山間地域振興条例づくりに向けて具体的な作業を開始しました。

委員会を2つの分科会に分け、第1分科会は条例の前文と目的を担当、第2分科会は他の条文を担当することになりました。私は第1分科会の副責任者です。この日は自由討議でした。

**上越市の地域の6割は中山間地**です。平地をぐるっと囲むようにして中山間地があります。よそと同じように人口の減少が著しく、農林水産業が衰退し、集落機能は低下の一途をたどっています。そういうなかでこの上越市の中山間地の特色、特徴はどこにあるのか、どういうところに中山間地の価値を見出していくのかという議論になりました。

上越市の中山間地の最大の特徴は「**重たい雪**」です。板倉区が積雪8メートルという世界記録を持っていることとわかるように豪雪地帯をかかえていて、海に近いことから雪質は重い。この重たい雪がマイナスにもプラスにも作用してきた歴史があることにみんなが注目しました。

さて、その中山間地ですが、国土保全、水源涵養などの役割を果たしています。分科会のメンバーはどんな価値を見出しているか。「行く」とホッとさせる。昔ながらの助け合いの精神が残っていて、人間らしい暮らしがある」「垣根が低くて、隣近所の温かい交流がある」「いろんな社会問題の解決のヒントがある」「中山間地は水や食料の供給元になっている」切れ目なく発言が続きました。

大島区の岩野議員の「中山間地にいたいんだけども生活できないから出ていく」という発言

を契機に、何が問題かについてもたくさんの方の発言がありました。一番の問題は農林業での所得が補償されていないこと、雇用の場がないことでした。所得を求めて平場へ出ていく。次は雪です。「雪さえなければ、ここは最高」という言葉に代表されるように、雪が暮らしに重くのかかっている。これをなんとかしないと年をとっても暮らす気になれないことが浮き彫りになりました。

この日の自由討議のなかでは、「中山間地と平野部のどちらもある上越市においては、双方の利点を生かして交流し、お互いの発展策を考えていくことが大切である」とも出されました。山に住む人たちが里や浜に住む人たちのために貢献し、里や浜に住む人たちが山に住む人たちのためになる。理想のように見えるかも知れませんが、同じ市の中にあるのですから、これを意識した具体策を検討しないともったいない。そう思います。

### 吉川方面隊も参加し、市長点検



消防点検は5日、市役所の春日野駐車場で行われました。吉川方面隊のみならず、小形さんも参加し、小型ポンプ操作には中央分団のみなさんが出場しました（画像）。

出番がくるちよつと前、大滝方面隊長は出場する団員の一人ひとりの肩にそつ

と手を乗せ、リラックスさせていました。競技はきびきびとしていて、スピードもありました。よかったです。

### 地震で被災した鎮守等の復旧補助

#### 上越市では38町内会が申請へ

既報のように、財団法人新潟県中越沖地震復興基金は復興基金事業の補助金交付要綱を改正し、鎮守・神社・堂・祠などの復旧についても補助対象にしました。

市役所の担当課によると、この補助事業を受けたいと手をあげたのは38町内会（事業費は概算で約4480万円）にのぼります。吉川区では12の町内会が手をあげています。

#### シリーズ 上越市内の橋

##### 第1回 出合橋

出合橋と書いて「であいはし」と読みます。柿崎川と米山寺川の合流地点にかかる橋。橋の北方向には米山が見えます。



歩いて、わずか10数歩という短い橋。名前を気に入っている人が多く、「歩いて渡ると素敵なお出合いがありそう」という人もいます。あなたも一度渡ってみませんか。出合橋は柿崎区、米山寺郵便局の近くにありま

す。昭和45年9月竣工。（次回は**歓喜橋**の予定）



【ナツツバキ】この花に初めて出会ったのは町田城跡（天守閣跡）でした。なめらかな木肌も純白の花も素敵でした。写真は代石地内で撮影したものです。ちょうどミツバチが蜜を吸いに来ていました。